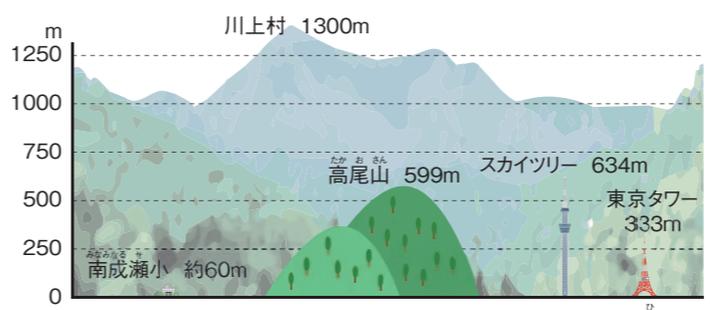




① 八ヶ岳のすそ野



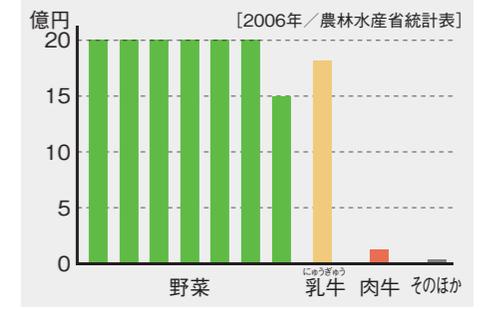
③ 高さの比かく



④ JR最高地点 (標高1,375m)



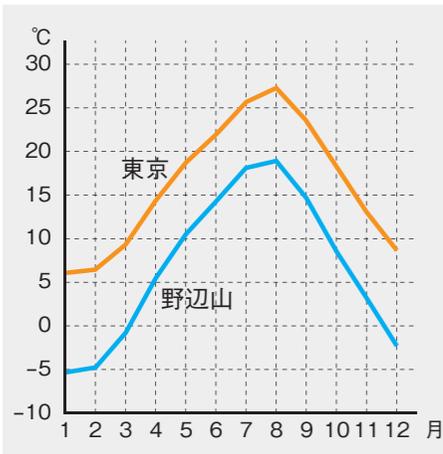
⑤ 川上村・南牧村付近の土地の利用のしかた



⑥ 川上村・南牧村の主な農産物の生産額

2 | 高い土地の暮らし — 長野県川上村・南牧村 —

つかむ 川上村・南牧村の土地の様子や人々の生活について考え、学習問題をつくりましょう。



② 南牧村(野辺山)と東京の月別平均気温

八ヶ岳のすそ野
長野県の川上村や南牧村の一带は、八ヶ岳のすそ野に広がっています。

広い畑があるよ。森林を切り開いたように見えるね。

東京と比べると、一年中気温が低いことがわかります。

このあたりでは高い土地のよさを生かして、何をしているのだろうか。

グラフを見ると、野菜づくりがさかんなことがわかります。

野辺山駅を夏に利用する人が多いのは、すずしいからかな。

八ヶ岳のすそ野には、八ヶ岳の噴火による溶岩と火山ばいが積もってできた土地が多く広がっています。もともとは、栄養分がないやせた土地で、農業には適していませんでした。

たくみさんたちは、このあたりの人々はどのようにして農業のさかんな土地にしていったのか、そして、土地利用のしかたや人々の生活について調べてみることにしました。

学習問題
高い土地に住む人々のくらしや産業には、どのようなくふうがあるのでしょうか。

調べること

- 高い土地を生かした農業がおこなわれるようになるまでの人々のくふう。
- 高い土地であることを生かした野菜づくりのくふう。
- 自然のめぐみを生かしたさまざまな取り組み。

①開たく以前の原生林におおわれた野辺山原(昭和7年)
佐藤實氏提供:「矢出川遺跡」長野県考古学会刊



⑥高原野菜発祥のいしづみ



②7月～8月のレタス



③カラマツばっ採と手ばっ根。
石と木かぶでうまっているような開こん地だった。



④カグラでのばっ根作業。
とう土を破って根回しが行われた。



⑤旧国鉄大門川鉄橋とSL



調べる

人々は、どのようにして八ヶ岳のすそ野を今のような土地に変えていったのでしょうか。

年	主なできごと
1930年ごろ	はくさいを試しにつくる(それまでは米やだいこんなどをつくり、馬を飼っていた)
1935年	小海線が開通する。野菜を鉄道で運び始める
1945年	野辺山原で森林を切り開き始める
1945年から50年ごろ	レタスやキャベツを試しにつくる
1973年	野菜をすべてトラックで運ぶようになる
1998年	コンピューターで野菜を出荷する時期を調べるようになる
2006年	川上村の野菜を台湾へ輸出し、せん伝を始める

⑦川上村と南牧村の農業の歴史

極貧の村から高原野菜大国の村へ

夏でも気温が上がらない川上村は、昔は米も育たず、極貧村とよばれていました。そんな時、小海線が開通し、大都市けんへの輸送手だんを得ることができました。人々はカラマツの木をばっ採し生計を立てるようになりました。しかし、木をきりすぎてしまったことで、しゅう入げんの木が減り、生計を立てることがむずかしくなりました。そのころ、朝鮮戦争がはじまり、米軍がレタス生産の土地をさがしていました。川上村は、夏の気候がすずしくレタスさいばいに適しているため、レタスをつくるようになりました。開こんから輸送消費まですべて米軍が関わりました。



JAの方の話

このあたりの夏のすずしい気候は、牛の飼育や牧草づくりにも適しています。昔の人たちが開いた土地で、牧草を育てて牛を飼っています。牛からしぼった乳は、工場で牛乳や乳製品に加工されて、関東地方の消費地に運ばれています。このあたりでは、野菜づくりのほかに、こうしたらく農もさかんです。

牛の世話には、野菜づくりとはちがった苦勞があります。毎日えさをあたえたり、乳をしぼったり、また牛が病気にならないように見守ったりすることが必要です。

牛のふんは、土づくりのうえで大切なたい肥になります。野菜づくりと牛を飼うことが結びついているのです。



耕地

田と畑と牧場を合わせて耕地といえます。

ことば

らく農

牛を飼育して、その乳で牛乳や乳製品をつくる農業をいいます。今は工場加工していますが、昔は農家で加工していました。

牛を飼うには苦勞がたくさんあります。野菜づくりには、どのような苦勞があるのでしょうか。



4~5月

①土づくり
たい肥をまぜて耕して、土を元気にします。



4~8月中旬ごろ

②なえを育てる
ハウスの中の温度は18度から20度に保たれています。



4~8月中旬ごろ

③なえの植えつけ
シートを張ったうねに、レタスのなえを一本ずついねいに手で植えます。



高原の野菜づくりには、どのようなくふうがあるのでしょうか。

夏に新鮮で安全な高原野菜をとどける

このあたりでは、すずしい気候を生かしてほかの産地の野菜が少ない夏から秋に、新鮮で安全な野菜を収穫できるように、さまざまなくふうをしています。特に畑にかぶせるシートは、日光をよく吸収し、気温の急げきな変化、風や病害虫の害、かんそうなどから根を守ります。

育った野菜は、きずをつけないように一つひとつ手作業で収穫します。畑で箱づめをしてから、集荷場に運びます。

よく消費者の方でレタスのしゅんは夏だと答える人がいますが、本当はすずしい春です。多くのレタスが市場に出回る時期は夏ですが、その多くはわたしたち川上村で育てた物です。そのため多くの消費者の方は夏だと考えるのです。東京でつくられているレタスは春に収穫しています。

ことば

高原野菜

土地の高いところで、夏のすずしい気候を生かして生産される野菜をいいます。



川上村のレタスの収穫と出荷

- 午前1時ごろ……作業の準備
- 午前2時ごろから…収穫
- 午前5時ごろから…予冷庫で冷やす
- 午前7時ごろから…出荷



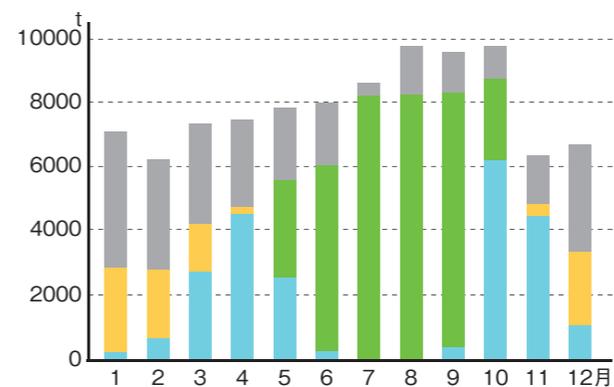
JAの方の話

レタスには、たくさんの品種があります。収穫の時期に合わせて種を選びます。種によって、育つ期間、病気への強さ、育成に適した温度などにちがいががあります。その年の気候や病害虫の発生などを考えて、まく種を選んでいきます。

川上村では、夜中の2時にレタスを収穫します。その後、温度を4度に保ち安全で新鮮なまま、消費者に食べてもらうようくふうしています。また、日本一のレタス生産量である川上村では、農家の年商平均2500万円、農業後継者の平均年れいも30代とわかく、全国的にもめずらしい地域です。

⑧ 東京都の市場で取り引きされるレタスの量

- 茨城県
- 長野県
- 静岡県
- その他



[2012年/東京都中央卸売市場年報 農産物編]

④レタスの収穫 なえを植えてから40~45日ほどで収穫します。

6月中旬ごろ~10月中旬ごろ



⑦夜中の2時に収穫する様子



⑥出荷

レタスがいたまないように低温輸送車で運びます。



⑤箱につめたあとに予冷庫で冷やす
箱づめをされて集荷場に運ばれたレタスは、きびしい品質検査を受けます。

レタスづくりのくふうがわかりました。では、農業以外の特色について調べてみましょう。



①ハイキング



②アイスツリー

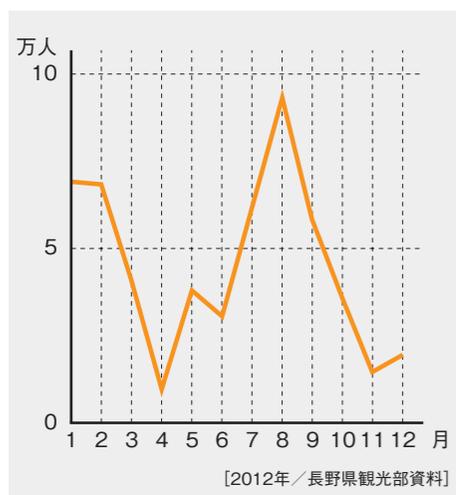


③牧場の体験



④ヘール・ボップすい星を追う
45m電波望遠鏡
提供:国立天文台野辺山宇宙電波観測所

野菜づくり以外に、どのような特色があるのでしょうか。
調べる



⑤川上村と南牧村をおとずれた観光客数

自然のめぐみを生かす

たくみさんたちは、このあたりの人々が自然のめぐみをどのように利用しているか、村の様子に詳しい人に聞いてみました。



川上村の方の話

村には、牛乳や乳製品の売り場のほかに、バーベキュー、乗馬などができる牧場もあります。また、最近では、牧場でらく農を体験したり、畑で高原野菜について学んだりすることができ、移動教室などで多くの学校が利用しています。

村では、県外から来る人たちが利用しやすいように、道路や公園などの施設を整えています。また冬の寒さを生かして、観光客に来てもらう行事も増やしています。

高い土地の地形を生かした人々の生活
まとめる のくふうをまとめましょう。

学習問題
高い土地に住む人々のくらしや産業には、
どのようなくふうがあるのでしょうか。

スケジュール表をつくろう

たくみさんたちは、川上村と南牧村のガイドになったつもりで、案内するためのスケジュール表をつくることにしました。

川上村・南牧村一日まんきつプラン

9:00	JR最高地点からスタート、記念さつえい		<説明用の台本> ①「夏でも、すずしい気候を利用して野菜をつくり、新鮮なまま運ぶくふうをしています。」「夜中から収穫します。」 ②「らく農はすずしいところに適しています。」「牛のふんがたい肥になり、畑の土づくりに役立っています。」「らく農の仕事を経験できる牧場も増えています。」 ③「JRで一番高いところにある駅です。」「このあたりは、高原野菜の産地として有名ですが、気候や自然を生かした観光もさかんです。」「特に夏には、たくさんの観光客がやってきます。」「林間学校やスキー教室など、農業以外にも地域のよさを生かそうとくふうしています。」
9:30	野辺山駅まで歩く <input type="checkbox"/> バスで川上村へ		
10:20	川上村のレタス畑を散々く レタス農家の方の話を聞く <input type="checkbox"/> バスで野辺山原の牧場へ	JR最高地点で記念さつえい	
12:00	牧場見学, 昼食, 体験 牛の世話(えさやり, 乳しぼり, パターづくり体験) 牧場の方にらく農の話を聞く <input type="checkbox"/>		
15:30	野辺山駅から小海線に乗って清里駅へ		

やってみよう!

- 右の<説明用の台本>の番号をスケジュール表の に書きこもう。
- **ことば** を活用して説明を加え、ガイドになったつもりで説明しよう。

ことば

● らく農 ● 高原野菜

⑥たくみさんたちが考えたスケジュール表



生かす

川上村で高原野菜農業体験を行い、農家さんにインタビューをしてみよう。

わたしたちは、6月の下旬に川上村移動教室に行き、高原野菜農業体験を行いました。わたしたちの学校は町田市にあります。町田市は川上村と交流都市になっており、町田市の宿泊施設も川上村にあります。農業体験では、種まき、なえの植えつけ、収穫、箱詰め作業を体験しました。どの作業も手作業で大変でした。農家の人にぎ問に思ったことをインタビューしました。インタビューの内容は事前に考えたものと体験を通してぎ問に思ったことについて聞きました。



農業をやっている大変なことは何ですか。

天候に左右されることです。レタスは天気の変化にびん感です。気温が高くても低くてもよいレタスにはならないからです。



くふうしていることを教えてください。

川上村は大都市けんにとても近く、東京までは3時間、大阪までは5時間で輸送できます。新鮮で安全なレタスを食べてほしいので、夜中の2時に収穫して4度に冷やして輸送します。魚は鮮度が大切とよくいいますが、レタスもそうです。



なぜ、小学校の農業体験を受け入れてくれたのですか。

みなさんの中には、食べ物のは簡単だと思ってる人がいて、残しても何とも思わない人もいます。しかし、農家の多くの人たちは一つひとつの食べ物に対して、手間をかけて大切に育てています。つくっている作業の大変さやつくっている人の思いを学ぶことで食に対する考えを少しでも変えてほしいと思ったからです。



消費者の方に伝えたいことはありますか。

どんなレタスでも愛情をたっぷり注いで、一つひとつ手作業でいねいに育てています。みなさんが買っているレタスはきびしいしん査に通ったとてもよいレタスなので、どのレタスも残さずに食べてほしいと思います。



わたしたちは、今回学んだことを多くの消費者の方に知ってもらいたいと考えようになりました。



広げる

高原野菜農業体験で学習したことや川上村の農家さんの思いを消費者にとどけるためにはどうしたらよいだろうか。

わたしたちは、高原野菜農業体験で学習したことや川上村の農家さんの思いを消費者にとどけるために何ができるのかを話し合いました。そのころ、総合の「地域とのつながり」の学習で、町田市のフットサルクラブ「ペスカドーラ町田」のクラブ運営と地域の関わりの話を聞きました。ペスカドーラ町田は地域に根差したクラブ運営を行っていることを知ったわたしたちは、町田市民体育館で行われるペスカドーラ町田の試合でレタスをはん売し、多くの消費者の方に川上村についてせん伝しようと考えました。



レタスはん売を行い、川上村をPRしよう。

わたしたちは、ペスカドーラ町田のフットサルの試合で川上村産のレタスのはん売を行いました。はん売するにあたり、川上村のレタスがおいしい理由を消費者の前でプレゼンしたり、消費者に川上村産レタスについてチラシにまとめ配付したり、レタスのCMを制作し試合会場で放送しました。また、体育館のピッチ場でもコント形式で2500人の消費者にむけてPRしました。多くの消費者の方に川上村産のレタスのよさや農家さんの思い、食の大切さを知ってもらうことができました。



2500人のお客さんにPR



レタスはん売

プレゼンやチラシから農家さんの思いが伝わってきました。日本産・日本の農家さんを大切にすることは、わたしたちのためであることを改めて考え、素晴らしい活動だと思いました。

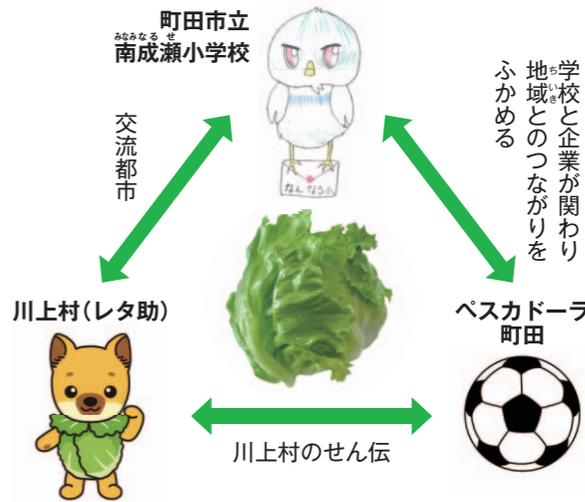
「わたしの学校でも高い土地のくらしを勉強している」と5年生のむすめがチラシを見せてくれ、興味をもったようで取っておくと言っていた。



買ってくれた方へのインタビュー

今まで味わったことのないおいしさでした。レタスに対する見る目がかわりました。
買っていただいた消費者の方にインタビューもしました。

町田市と川上村と企業のつながり



これまで学習した内容を、レタス学会で発表しよう。



これまで学習してきた高い土地を生かした人々の生活や、高原野菜農業体験、レタスはん売などの内容をまとめ、南成瀬小レタス学会で発表しました。学会には川上村役場の方、川上村の農家の方、ペスカドーラ町田の方、地域の校長先生、物流会社の方にご案内状を書きお招きしました。(当日農家さんの都合がつかず、農家さんは来られませんでした。)また、保護者の方にも来ていただきました。プレゼンの内容は大きく6グループに分けられました。

- 1 川上村のがい要
位置、歴史、特産物について
- 2 川上村のレタスさいばい
高原野菜農業体験で学んだことについて
- 3 地域とのつながり
川上村と交流都市の町田 ペスカドーラ町田について
- 4 レタスはん売
レタスはん売の内容とその成果について
- 5 学校で育ててみたレタス
自分たちでもレタスを育て、そのむずかしさについて
- 6 これからの農業
SDGsを入れながら、これからの農業について調べまとめた

これまでの学習内容を通して、思ったこと感じたこと学んだことをふり返ろう。

最後に、これまでの学習内容を通してわたしたちの思ったこと感じたこと学んだことをふり返りました。

- 「初めはレタスについて何も知らなかったのですが、レタスを食べても何も考えなかった。でも、今回の学習を通して日本のレタスさいばいには歴史があって、一つひとつ農家の人の思いがあることを知ることができた。」
- 「教科書で学ぶことも大切だけど、実際に行って体験して、関わっている人の話を聞くこともとても大切だと感じた。」
- 「高原野菜農業体験でその場で食べたレタスは最高においしかった。その味に多くの人の手と、時間がかかっていることに気が付いたことはすごいことだと思った。レタスはん売で、消費者の方にその思いが伝わったことがうれしかった。」
- 「レタス学会の『これからの農業』について考えた時、SDGsについて知った。どれもわたしたちに関わり合いのあることだと思った。地域ごとに考えて自分たちにやれることをみんなが行えば、地球規模でよくなることにワクワクしたし、興味をもつことができた。」
- 「すべての学習がレタスだけでなく、日本の農業や畜産業、漁業にもあてはまるのではないかと思った。」

他の教科と関連づけて考えよう。

さまざまな教科を通して、高い土地のくらしやレタスや食について考えよう。

社会	高い土地のくらし	●川上村のレタス生産について	国語	話す・聞く きいて、きいて、 きいてみよう	●高原野菜農業体験のインタビュー内容を考える ●農家さんに何を聞くのか内容を精査して考える
	関東平野の レタスづくり	●レタスのしゅんや生産の時期について		話す・聞く きいて、きいて、 きいてみよう	●川上村高原野菜農家さんにインタビューをする
	高い土地のくらし	●川上村高原野菜農業体験		活動報告書の作成	●事実と考えを区別して、移動教室の活動報告書を作成する。
社会 総合	これからの食料生産	●SDGs をとりいれた学習内容 ●これからの農業について考える	明日をつくる わたしたち 提案書の作成	●これからの農業についての提案書を書く	
	高い土地のくらし	●レタスをはん売 ●レタスをはん売することにより高い土地のくらしのくふうや農家さんの思いを消費者に伝える	グラフや表を 用いて書こう	●レタス学会に向けて、データを用いて発表する	
総合	南成瀬小 レタス学会	●これまでの学習内容をまとめ、発表する	算数 平均	●レタスはん売の収益について考えよう ●利益、純利益や売り上げ、平均値	
	川上村について 知ろう	●川上村について調べる ●レタ助（レタスと川上犬をかけたマスコット） ●川上村の歴史など	家庭科 調理実習	●川上産レタスを使った調理	
理科	地域とのつながり	●ペスカドーラ町田と地域 ●レタスはん売とのつながり ●川上村と町田市の交流都市	体育 ゴール型ゲーム	●ペスカドーラ町田による出前授業 ●フットサルゲーム	
	植物の発芽	●インゲンとレタスの比かく	道徳 一ふみ十年	●高い土地の自然について考える	
	植物の成長	●インゲンとレタスの比かく ●時期的にレタスは育たない ●育たない理由を「レタスの時期」と関連づけて考える	学活 学校のために 自分たちができること	●レタスはん売の売り上げで学校に何ができるか考えよう	